

NPO 入会から思うこと

堀川博由(京都大学理学部4回生)

この文を書いている2008年6月現在、私は京都大学理学部で超伝導理論を主に専攻しています。一見すると天文台には全くの無関係の様に感じる方がいらっしゃるかもしれませんが。

私は NPO 設立以前から花山天文台の観望会を何度かお手伝いさせて頂いています。観望会にいらっしゃる方々は老若男女問わず星や天文に対して強い興味を持った方々が多く、ご案内をする合間にお話をする際には知識の深さに驚かされることがあります。特に小学生の参加者の中には星や衛星の名前などを本当に好きで覚えているお子さんもいらっしゃいます。小学生なので勿論頭も柔らかく、そんな子が私の知らない知識をさも当たり前のように語り語り語る姿を見ていると、自分もまだまだ勉強不足だと改めて教えられます。このように色々と刺激を受けるので、観望会に参加することは案内する私にとっても大変有意義な経験となっています。

また別の機会には、NPO の活動の一環として洛東高校の西村昌能先生が率先して行われた、月のクレーターの深さを観測によって求めるという観測実習の TA も務めさせて頂きました。あいにく天気恵まれない事もありましたが、少し雲間が差し数分だけ月が望遠鏡で見た時の洛東高校の生徒さん達の熱狂具合はとても印象的でした。高校生の時期から夜間の天体観測を体験出来ることはやはり他では得がたい経験だろうと思いますし、NPO の活動による「教育」の意義深さをその時痛感致しました。

さてここで私と花山天文台との繋がりを少し語らせて頂きます。そもそも私と花山天文台との出逢いは私が大学に入学した時にまで遡ります。

京都大学理学部には少人数クラスという制度があり、私のクラス担任が偶然にも花山天文台の現台長である柴田一成先生でした。大学に入学する以前までは宇宙に対して殆ど興味がなかった私ですが、入学直後の柴田先生との面談で太陽や宇宙物理学に対して非常に多くの事をお話し頂き、途端に宇宙への興味が沸いてきました。柴田先生のお話がお上手という事もあってか私もつつい話し込んでしまい、面談が予定の時間よりもかなり延びて終わる頃にはすっかり日が暮れていた事を今でも覚えています。

それをきっかけとして、柴田先生の1回生向けのポケットゼミへ参加し宇宙物理学について色々とお話頂きました。太陽フレアや磁気リコネクション、星形成や林トラック、降着円盤や宇宙ジェットなど枚挙に暇が無い

程、様々な事を大学に入学して初めて知りました。そして同時に、高校まで自分がしてきた勉強はなんとつまらなく灰色の無味乾燥としたものであったのだらうと思いました。私はその時初めて自分は今まで宇宙に興味を持たなかったのではなく、持つ機会さえもなかったのだと自覚しました。

観望会というものはそんな入学前の私の様に真剣に宇宙について勉強してこなかった人、もしくはその機会に恵まれなかった人にとってはまさに絶好の機会ではないか？ と思います。晴れていれば45 cm 屈折望遠鏡を使ってその日のテーマとなる天体を見ることが出来ますし、天気に関わりなく講演会は毎回必ず聴講することが出来ます。特にこの講演会は大学生にとっても知らない事が多いです、興味深い内容が随所に散りばめられた大変価値のある講演です。このような話は高校までのごく一般的な授業・教育を受けていただけでは決して聞く事が出来ないことでしょう。

残念ながら授業が苦手な幼いお子さんが退屈そうに暇を持て余してしまう場面も時折見受けられます。しかし一方でそのようなお子さんの保護者の方々は非常に熱心に聴いてらっしゃる場合が多い様な気が致します。そんな保護者の方々の姿を見る度、私と同じ様にこの時間を大変かけがえのないものとして捉えていらっしゃるのかな？ と少し嬉しい気持ちになります。そんな光景を見るのも観望会に参加する私の楽しみのひとつです。

花山天文台は非常にユニークな天文台だと思います。80年近くに渡る長い歴史の中でアマチュア天文学会の草分け的存在であった時期もある一方で、現在に至っては「日本一夜景が美しい天文台」となり、来る方々の目を楽しませています。夜景が美しいという事実は一見天文台として矛盾している様にも思えますが、現在花山天文台においての観測は太陽観測が主である様なので天文台の価値そのものが失われた訳ではありません。それどころか、観望会当日がたとえ空一面の快雲であったとしても夜景は山科全体が停電しない限り必ず見られるので、「どんな天気でも何かしら見られる」という風に観望会を行う上では利点にまでなっています。観望会の案内役は天文以外に京都周辺の地理にも詳しくあるべきなのかもしれません。

この花山星空ネットワークは、星が好きだというただそれだけで本当に様々な方々が集まっていっしょる様に思います。観望会に集まるボランティアの面々を見てみても、純粋に「星を、宇宙を、見たい！ 知りたい！」と思う気持ちの下では誰しもが平等なのだと思えます。

私も何かしらの真理を探究する端くれとして、このような知識と経験の得られる場が提供される事は大変喜ばしいと思っています。これから次第にNPOの活動がより多くの方々に認知され、真に市民の方々へ、ひいては日本全国の天文好きの方々へ親しまれる存在へと発展して欲しいと思えます。